

■正誤問題 (過去に出題された選択肢) 26 問

木造住宅における設備工事に関する問題です。○×で回答して下さい。
答えが×になった場合は、どこが間違っているのかも考えてみましょう。

1. 管径 100mm の屋外排水管の勾配は、1/100 とした。
2. 雨水立て管と通気立て管とを兼用した。
3. 寒冷地以外の一般敷地内において、特記がなかったので、給水管の地中埋設深さは、土かぶりを 300mm とした。
4. 給湯管には、架橋ポリエチレン管を使用した。
5. 排水横管は、管径が細いものほど急勾配とした。
6. 換気設備のダクトは、住戸内から住戸外に向かって、先下がり勾配となるように取り付けた。
7. 管径 75mm の屋外排水管の勾配は、1/200 とした。
8. 屋内給水管の防露・保温材には、特記がなかったので、厚さ 20mm の保温筒を使用した。
9. 給湯管には、銅管を使用した。
10. 寒冷地以外の一般敷地において、特記がなかったので、給水管の地中埋設深さは、土かぶりを 500mm とした。
11. メタルラス張りの壁にスイッチボックスを設けるに当たって、スイッチボックスの周辺部分のメタルラスを切り取った。
12. 浴室の洗い場の排水管には、封水深が 5cm のベルトトラップ(わんトラップ)を設けた。
13. 給水管には、耐熱性硬質塩化ビニル管を使用した。
14. 給気用ダクトの断熱被覆については、グラスウール保温材を用いて、ダクトの全長にわたって行った。
15. 雨水用の排水ますには、ますの底部に深さ 10cm の泥だめを有するものを使用した。
16. 手洗器の排水管には、封水深が 50mm 以上 100mm 以下の P トラップを設けた。
17. 寒冷地以外の一般敷地内において、給水管の地中埋設深さは、土かぶりを 300mm とした。

18. 排気セントラル換気方式（第3種換気方式）としたので、居室の自然給気口を床上 1,800mm の高さの位置に設けた。
19. 換気用の硬質塩化ビニル製ダクトにおいて、外壁から 1m 以内の距離にある部分は、グラスウール保温材を用いて断熱被覆を行った。
20. 電気のスイッチボックスは、メタルラスに接しないように、木板を用いて絶縁した。
21. 湿気のある場所に施設するケーブル相互の接続箇所には、黒色粘着性ポリエチレン絶縁テープを使用した。
22. 台所のレンジ用フードファンには、グリースフィルター付きのものを使用した。
23. 給湯管には、ステンレス鋼管を用いた。
24. 寒冷地における給水管の配管の勾配は、水抜きが容易にできるように先上りとした。
25. 屋内の排水横管の勾配は、1/200 とした。
26. 屋内給水管の防露・保温材には、特記がなかったので、厚さ 10mm の保温筒を使用した。



■正誤問題 解答編

1. 管径 100mm の屋外排水管の勾配は、1/100 とした。
1. ○ 屋外排水管の主管の呼び径は 75 以上とし、勾配は 1/100 以上とする。
2. 雨水立て管と通気立て管とを兼用した。
2. × 雨水立て管は、排水立管および通気立て管と兼用してはならない。
3. 寒冷地以外の一般敷地内において、特記がなかったので、給水管の地中埋設深さは、土かぶりを 300mm とした。
3. ○ 給水管の地中埋設深さは一般敷地では土かぶり 300mm 以上、敷地内車両通路では 600mm 以上とします。
(ただし、寒冷地では凍結深度以上)とする。
4. 給湯管には、架橋ポリエチレン管を使用した。
4. ○
5. 排水横管は、管径が細いものほど急勾配とした。
5. ○
6. 換気設備のダクトは、住戸内から住戸外に向かって、先下がり勾配となるように取り付けた。
6. ○
7. 管径 75mm の屋外排水管の勾配は、1/200 とした。
7. × 屋外排水管の主管の呼び径は 75 以上とし、勾配は 1/100 以上としなければなりません。
8. 屋内給水管の防露・保温材には、特記がなかったので、厚さ 20mm の保温筒を使用した。
8. ○
9. 給湯管には、銅管を使用した。
9. ○
10. 寒冷地以外の一般敷地において、特記がなかったので、給水管の地中埋設深さは、土かぶりを 500mm とした。
10. ○
11. メタルラス張りの壁にスイッチボックスを設けるに当たって、スイッチボックスの周辺部分のメタルラスを切り取った。
11. ○

12. 浴室の洗い場の排水管には、封水深が 5cm のベルトトラップ(わんトラップ)を設けた。
12. ○
13. 給水管には、耐熱性硬質塩化ビニル管を使用した。
13. ○
14. 給気用ダクトの断熱被覆については、グラスウール保温材を用いて、ダクトの全長にわたって行った。
14. ○
15. 雨水用の排水ますには、ますの底部に深さ 10cm の泥だめを有するものを使用した。
15. × **ためますには、底部に深さ 15cm 以上の泥だめを設けます。**
16. 手洗器の排水管には、封水深が 50mm 以上 100mm 以下の P トラップを設けた。
16. ○
17. 寒冷地以外の一般敷地内において、給水管の地中埋設深さは、土かぶりを 300mm とした。
17. ○
18. 排気セントラル換気方式（第 3 種換気方式）としたので、居室の自然給気口を床上 1,800mm の高さの位置に設けた。
18. ○
19. 換気用の硬質塩化ビニル製ダクトにおいて、外壁から 1m 以内の距離にある部分は、グラスウール保温材を用いて断熱被覆を行った。
19. ○ **換気ダクトは、外からの冷気の侵入に備え、外壁から 1m の部分を保温する。**
20. 電気のスィッチボックスは、メタルラスに接しないように、木板を用いて絶縁した。
20. ○
21. 湿気のある場所に施設するケーブル相互の接続箇所には、黒色粘着性ポリエチレン絶縁テープを使用した。
21. ○
22. 台所のレンジ用フードファンには、グリースフィルター付きのものを使用した。
22. ○
23. 給湯管には、ステンレス鋼管を用いた。
23. ○

24. 寒冷地における給水管の配管の勾配は、水抜きが容易にできるように先上りとした。

24. ○

25. 屋内の排水横管の勾配は、1/200 とした。

25. × 屋内横走り排水管の勾配は、原則として、呼び径 65mm 以下は最小 1/50、呼び径 75mm 及び 100mm は最小 1/100、呼び径 125mm は最小 1/150、呼び径 150mm 以上は最小 1/200 とします。径の大きさに関係なく勾配を 1/200 とするのは、不適當です。

26. 屋内給水管の防露・保温材には、特記がなかったので、厚さ 10mm の保温筒を使用した。

26. × 給水管の保温材は、管径が大きいものほど厚くしますが、比較的径の小さい給水管の場合、保温材の厚さは 20mm とします。

